



▲こだわりの衣装でアピールする参加者たち ▶最後の夏休みを楽しむ子どもたち

## mizuhorengouchounaikai 瑞穂連合町内会

### 高齢化に負けず 伝統行事を継続



瑞穂町のむつみ公園において、毎年開催されている瑞穂連合町内会（野原武会長）主催の盆踊り大会が8月16・17日の2日間にわたり開催され、大人から子どもまで踊り手だけで約400人が集まり、夏の風物詩を楽しみました。

瑞穂町の盆踊りは、町内会単位では珍しい仮装盆踊りで、昭和46年から伝統的に引き継がれている連合会行事。野原会長は「こういった行事は一度止めてしまおうとなかなか復活できません。役員も高齢な人が多いですが、これからも頑張って継続していきたい」と話します。仮装盆踊りは、2日目に開催され、踊り手は町内会単位をはじめ、他の地域からも個人や団体が参加。優勝者などには懸賞金が出され、仮装も趣向を凝らしたもののばかりです。また、会場には露店もあり、踊り手だけでなく、観客も楽しく過ごすことができます。

連合会では、このような高齢者から子どもまで楽しむことができる行事を数多く取り組み、

地域全体を盛り上げています。中でも、地域に住む270戸の中に、75歳以上の方が77人も住んでいることもあり、これから開催する敬老会では、高齢者に楽しんでもらおうと、さまざまな催しが企画されています。また、体育の日に行う「楽しく歩こう会」を開催したり、地域の子どもたちが楽しみにしている「クリスマス会など年間行事が目白押しで、時間の無い中でも地域の方々が連携し、協力しながら、毎年事業を継続しています。

来年は町内にあるすべての防犯灯をLEDに替えていく予定で、地域の防犯にもより一層力を入れていくそうです。

